

## 平成23年度 実践目標自己評価結果報告

テーマ	SC「スチューデント・サティスファクション」生徒満足の実現に向けて
目標（ねらい）	「学校は生徒のためにある」という職員意識の涵養

A：良くあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	実践目標	A	B	C	D
学校運営	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間教科間の互換理解がなされ、信頼関係の基づく教育活動を進める。	22% 10	30% 14	44% 20	4% 2
		会議の有効性	職員会議をはじめ各種会議を有効に機能させる。	20% 9	31% 14	46% 21	3% 1
生徒	生徒支援	学習指導について	学習指導において生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行う。	46% 21	45% 20	19% 9	0% 0
		進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができる支援体制を整える。	35% 16	53% 24	12% 6	0% 0
	生徒指導	生活指導について	生徒の生活指導において、教員の統一した見解を持ち、指導にあたる。	26% 12	37% 17	37% 17	0% 0
		家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携を密に行い。信頼関係を築く。	42% 19	50% 23	8% 4	0% 0
教育	生徒会活動	生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できる支援を行う。	37% 17	48% 22	13% 6	2% 1
	その他	部活動	強化クラブを中心に部活動を活発化させ、学校の活性化を図る。	59% 27	31% 14	10% 5	0% 0

学校長所見	生徒募集は学校存続の要である。如何に生徒に魅力ある学校づくりをするかに学校の浮沈が懸かっているのは自明の理である。「躰・和心・グローバル」を行動指針とし、教育活動・特別活動に取り組んだところであり、5度目の宮中歌会始の入選を果たし、3年連続で台湾において開催される国際会議の出場を決めるなど、生徒に還元できる成果を発揮することができた。
平成24年に向けて	中学校時代にさほどの成功体験を持ちえていない生徒に対するきめの細かい導きが大切である。個々の生徒たちが明浄学院高等学校に入学して、本当に良かったと心底思えるような環境整備が喫緊の課題である。